資料３－２

団体ヒアリングから見る傾向・キーワード

属性	傾向	キーワード
子育てママ	◯ 現状の子育て支援サービスの内容でほぼ満足している傾向にある。また、当町の子育て支援サービスは、他町に比べて、サービスが高いという声が多くあげられた。 ◯ 町外移住者から、すくすく３・９のような子育て世代が集う場と、そこから生まれるコミュニティや地域活動などの自己実現のしやすさが、魅力としてあげられた。 ◯ 子育てをするうえでの不安・不満としては、緊急時の医療体制の不十分さや、子どもの遊べる場の少なさ、少子化に伴う選択肢の減少などがあげられた。	・地域医療の充実 ・子育て環境の整備
外国人定住者	~~◯ 行政サービスや公共インフラ等の整備については現状で満足している。ただ、バリアフリーの整備は遅れていると感じている。~~ ◯ 外国人の方も含め、誰もが使いやすいバリアフリー整備が必要であるとの意見があげられた。 ◯ 平時においては、「サイン看板の少なさ」が、緊急時においては、「防災無線や防災メールの内容」など、情報発信のあり方に不便を感じている。	・バリアフリーの推進 ・多言語対応
役場若手職員	◯ 町の魅力や良さに、町民がフレンドリーなこと、町民との距離の近さがあげられた。一方で日常生活における地域との関わり（町内会等）がほとんど無く、買い物や遊び等を含めて、その生活圏が町外である傾向が強かった。	・職員の地域コミュニティの参加
移住者 （地域おこし協力隊）	◯ 「情報発信のあり方」と「人材誘致」が共通の話題として取り上げられた。 ◯ 白老町にある様々な強みや魅力（人、自然、文化、国立博物館、気候、アクセス等）を十分に活かしきれていないと感じている。 ◯ 移住も関係人口の拡大も、「コト」だけの情報では人は来ず、人との関わり（地域コミュニティ）や白老に来て何ができるか等の具体性をイメージできる「情報発信のあり方」がより重要である。 ◯ 企業誘致で雇用創出という考えも重要であるが、企業誘致は大きな投資や誘致した際、町内に企業色が強くなる（偏りが出る）などの課題もあり、「町内に仕事がない」のではなく、今後は、町としてどのような人材を欲するかを明確にした「人材誘致」の考え方と、その誘致による町の人材の多様性の確保が重要である。	・関係人口の拡大 ・移住・定住施策の推進 ・地域資源の磨き上げ ・情報発信 ・人材誘致
若手事業者・経営者 白老青年会議所 ※裏面に続く	◯ ヒアリングを実施した方々は、白老出身・白老育ちで、一度は親元を離れる（大学進学・就職等で）が、親の跡を継ぐためUターンで戻るパターンが大半であった。 ◯ 20～30 代の若手経営者は、地域の衰退に対して強い危機感を持っている。特に、担い手不足は各業界共通の課題である。	・若者の創業支援 ・担い手確保

若手事業者・経営者 白老青年会議所 ※続き	◯ 一部の若手経営者からは、一部の年配の有力者により物事が決められることや、その意向に沿わないと物事がうまく進まなくなるといった独特の環境があることも課題としてあげており、前向きに若者がチャレンジできる環境や話し合える場を求める声もあった。 ◯ 青年会議所内や他地域の青年会議所とのつながりは密であるが、一方、近所や地域コミュニティとの関係性は薄い傾向にある。	・若者の地域コミュニティの参加
一次産業 （漁業） ＪＦ青年部・ＯＢ	◯ 漁師を始めて約 20 年の経歴をもつ組合員にヒアリングを行った。漁師を始めたころから現在に至るまで、大きくまちの漁業が変化していると感じている。その中でも、経営的要素や担い手不足等、様々なことが起因する「将来のまちの漁業への危機感」があげられた。 ◯ これまで、スケトウダラ漁や毛ガニ漁を主要魚種としてきたが、年々、漁獲量が減ってきている。30～40 歳代の漁師は、今までのように「獲る」だけの経営では立ち行かなくなるのではとの強い危機感を感じている。また、その危機感は、年配世代より、若い世代の方が強く感じている。 ◯ 漁獲した魚の船上活締め・神経締め等の付加価値・差別化の取り組みも、漁師だけで可能となるものではなく、仲買人や漁業組合等が一丸となる必要性もあげられた。 ◯ 漁業権のハードルが非常に高く、個人による担い手不足の解消が進まない。関係機関との連携が求められる。	・持続可能な漁業 ・栽培漁業の推進 ・高付加価値化 ・担い手確保
一次産業 （畜産業） ＪＡ青年部	◯ 肥育からレストランでの販売までを手掛ける生産者は、将来ビジョンとして、白老牛と他国産和牛との差別化や、海外の安価な輸入肉との差別化、白老牛の更なるブランド化が必要であると感じている。 ◯ 同じ世代の同業者であっても温度差があり、個人畜産は繁殖、企業畜産は肥育に注力する「役割の二分化」が課題となっている。 ◯ 牛を相手にしていることもあり、多忙であることから、近所づきあいや他業種との同世代の交流が少ない傾向にある。	・ブランド化推進 ・特産品の魅力発信
町内会長	◯ 各町内会共通の懸念事項として、人口減少・高齢化を背景とした町内会員数の減少があげられた。加えて、若い世代や転入者の加入率が低く、活動の停滞、役員の担い手不足、活動資金（会費収入）の減少等があげられた。 ◯ 町内会の負担軽減や町内会の統合を求める声が多く、町内会の維持・存続について検討していく必要がある。 ◯ 独居高齢者の見守り等、今後、町内会の役割はますます大きくなっていく。若い世代の加入率の促進等、町内会活動・コミュニティの活性化に向けた取り組みを進めていかなければならないと感じている。	・地域コミュニティの活性化 ・若い世代の町内会加入率の向上 ・町内会の再編